

「会員短信 41」

「学び継ぐ先に夢が」 吉原瑞雲

八木会長の「俳句の本質に滑稽がある」に賛同し、平成二十七年に滑稽俳句協会に参加させていただきました。投句をすれば、三句すべてが会報に載りますので、緊張を強いられます。毎月、ベテランの作品に交じって、肩を怒らして並んでいる拙句に苦笑しております。

時折、スクラップしている会報を読み返しておりますが、学習することがたくさんあります。八木会長のユーモアと笑いを誘う作品や解説に触れていますと、一層笑いの本質が見えてきます。そのため、コロナによる自粛、巣ごもり生活になっても、ありがたいことに、時間を持て余したことはありません。

新型コロナの発生により何かと喧しいこの頃ですが、長生きをして滑稽俳句に専念し、夢でもある句集の下地作りにとりかかりたいと思っております。「自分の言葉で、自分でなければ詠めない」作品集であったら…などと、大それたことを考えております。

毛髪と同様に心細くなって来た老い先ですが、一生学ぶつもりです。向後とも、ご指導ください。

塞翁が馬と心得大昼寝

のつけから出さるる大声どくだみ茶

蚯蚓ごと畑売るはなし埒もなや

万札で塞いでみたい隙間風

暖かし歩く形なりして靴干さる